

# 父という風景、 母という風景

## 松尾家●曾谷

父◆松尾謙太郎(35歳)

母◆由美子(36歳)

長女◆風音(6歳)

長男◆龍之進(5歳)

次女◆響(3歳)

謙太郎さんのお仕事は、装飾画工。建物に絵を描いたり、装飾をしたりオブジェを制作しています。

お仕事とは別に、曾谷のお住まいを「好きで集めた」レトログッズを扱うお店にする準備中。撮影のこの日、市川市内は最高気温が35度を超す猛暑。家族5人揃って、今年をはじめのプールを楽しんでいました。

松尾さん一家は、市川市に住んで10年になります。

謙太郎 龍之進の髪の毛は、僕がバリカンで刈っています。

結構、注文が多いんです。

由美子 幼稚園では人気だよな。

龍之進 (照れ笑い)。

風音 ねえ、これ何の写真？

謙太郎

会社が市川にあるので、新小岩に住んでいたんですが、自然が残る環境に惹かれて市川に引っ越してきました。最初は真間に住んでいましたが、宮久保へ移り、ここ曾谷では3年目になります。曾谷の田舎っぽいところが好きです。「バイク乗り」なので、自然が残っていて、走っていて気持ちがいいところが気に入っています。

由美子

川がもつときれいだっつたらいいですね。川をきれいにしようと思ってるみなさんがいるので、協力していきたいと思っています。

謙太郎

この間は、近所の子どもたちとみんなで、近くの貯水池でこんな大きな(と)って両手を30cmくらいに広げる(と)スポンを捕まえました。そうしたら次の日スポンが逃げ出して、近所中が大騒ぎ(笑)。毎年、夏になると、その貯水池にカメを捕まえに行くんだよね。

由美子

ねえ、この写真、何に載るの？

謙太郎

僕たちにとっては、近所のみんなが一緒。みんなが家族だと思っています。この家だつて、ワニの人形がぶら下がっていたりキューピーちゃんがぶら下がっていたり、近所でも有名な遊びスポット。今日も、少ししたら近所の子どもたちがプールに

入りに来ますよ。僕らの頃は、3歳位になったら近所の友だちが遊びの誘いに来たり、こつちから呼びに行ったりしていましたよね。今は、親同士が電話でアポを取って、それから子どもが遊びに行くのが当たり前になっている。子どもが自分たちで遊べる環境を大人たちが作ってあげれば、昔みたいに子ども同士で遊ぶことができるようになるんじゃないかと思っています。

そのためには、大人は子どもが小さい頃から一緒になって遊ぶべきだというのが、謙太郎さんの持論です。すぐそこに貯水池があっても、子どもに「遊びにいったらいい」とはいえない状況がある。それは、大人がそこで一緒に遊んで、遊び方を教えていないから。遊び方を子どもが知らないから事故がおこる。だから子どもたちだけでは遊びに行かせられないのだ、と謙太郎さんはいいます。

謙太郎

遊ぶことにしたつて、玩具売り場でお金を出しておもちゃを買って遊ぶのではなく、子どもと一緒にアイデアを出し合つて、遊ばせたいんです。例えば、ザリガニをいっぱい捕まえたなら、おいしく食べる方法を考えて食べてみたつていいし、お祭りでも売つたつていい。みんな、子どもに合わせようと、必死になっているような気がします。そうではなくて、親が楽しめば、子どもが自然とついてくるんだと思っています。

「努めて子どもと一緒にいる時間が多くなるように、仕事も配分している」という松尾さん夫婦。子どもたちのこぼれんばかりの笑顔が印象的でした。



